

令和7年度（2025年度）熊本県林業研究・研修センター 業務発表会

1 日 時：令和7年11月20日（木）午後1時30分～

2 場 所：熊本県林業研究・研修センター 森創館

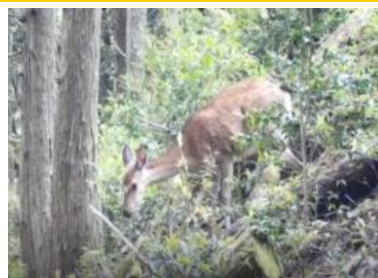
3 発表内容：以下のとおり

お問い合わせ：096-339-2222

シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究

ニホンジカの個体数増加および生息域の拡大は、造林木の剥皮や枝葉の食害を引き起こし、木材価値の低下や下層植生の消失を招き、森林の公益的機能の低下が懸念されています。また、獣害ネットなどの防除に加え、警戒心の強い「スレ個体」の増加を防ぐためにも、確実かつ継続的な捕獲対策が必要です。

今回は、シカの個体調査をもとに、猟具（くくりわな）の効率的な捕獲技術と猟具の検証結果について報告します。



シャカインの雄花着花に関する研究

戦後に造成された人工林は本格的な利用期を迎え、主伐面積の増加が見込まれる中、主伐後の再造林に必要な苗木の確保が課題となっています。これらに対応するため、当センターではシャカインなどの成長特性、材質、着花性を科学的に解明する方針のもと、継続的に研究を進めてきました。

今回は、林野庁の「スギ花粉発生源対策推進方針」に対応し、シャカインの複数クローンのうち、真円性や完満性に優れるⅠ型と同じDNA型を持つ精英樹「県下益城1号」の雄花着花性調査結果について報告します。



皆伐により発生した末木枝条の危険性に関する研究

近年、記録的豪雨による山地災害が多発する中、森林の手入れ不足や皆伐、間伐材・枝条の放置が災害を助長する懸念が広がっています。しかし、防災の観点から末木枝条を対象とした研究事例は、これまで十分に明らかにされていません。

今回は、令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた県南地域を中心に、皆伐に伴う枝条の集積状況と、それにより誘発された事象を調査し、災害発生の危険性を考察した結果について報告します。



県産ヒノキ中大径材を活用するための性能の明確化に関する研究

人口や世帯数の減少により住宅着工戸数が徐々に低迷し、木材需要への影響が懸念される一方で、スギやヒノキの人工林資源は充実してきており、立木の高齢級化・大径化が進んでいます。

今回はヒノキに着目し、木造軸組住宅における横架材（梁）や現し床、枠組壁工法構造用製材（2×10材）への新たな用途としての利用を想定し、各部材の強度性能試験を実施しました。その結果について報告します。



3 スケジュール

時 間	内 容
13:30～13:40	開会 主催者挨拶・来賓挨拶
13:40～14:00	センターの概要説明 所長 鹿井実
14:00～14:30	シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究 育林環境部 部長 草野僚一
14:30～15:15	シャカインの雄花着花に関する研究 育林環境部 部長 草野僚一
15:15～15:25	休憩
15:25～16:00	皆伐により発生した末木枝条の危険性に関する研究 育林環境部 部長 草野僚一
16:00～16:30	県産ヒノキ中大径材を活用するための性能の明確化に関する研究 林産加工部 部長 徳丸善浩
16:30	閉会

4 アクセス

〈熊本市中央区黒髪8丁目222-2〉

- ・ JR豊肥線竜田口駅下車 徒歩約20分
- ・ バス：九州産交バス 又は 熊本電鉄バス
→ 桜町バスターミナルから、子飼橋経由で竜田口駅方面行きの各路線
「小碓（おぜき）橋」「つつじヶ丘」「竜田口駅前」下車徒歩約20分
- ・ タクシー：JR熊本駅8.3km、桜町バスターミナル6.2km



熊本県林業研究・研修センター
位置情報 (Google Map)

